



## 2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月13日

上場会社名 株式会社ショーケース 上場取引所 東  
 コード番号 3909 URL <https://www.showcase-tv.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 永田 豊志  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO兼経理・財務部長 (氏名) 平野井 順一 (TEL) 03-6866-8555  
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年12月期第3四半期の連結業績(2020年1月1日～2020年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		EBITDA		親会社株主に 帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	1,031	△8.6	△28	—	△23	—	18	△85.9	△36	—
2019年12月期第3四半期	1,128	77.0	83	43.7	△11	—	132	△54.0	△168	—

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 △36百万円(—%) 2019年12月期第3四半期 △166百万円(—%)

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	△5.40	—
2019年12月期第3四半期	△24.87	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	1,981	875	44.2
2019年12月期	2,228	949	42.6

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 876百万円 2019年12月期 950百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	5.50	5.50
2020年12月期	—	0.00	—	—	—
2020年12月期(予想)	—	—	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,500	—	20	—	50	—	35	—	5.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

未定としておりました2020年12月期通期連結業績予想を上記のとおり公表します。詳細は添付資料P5の1.(3)をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2020年12月期3Q	6,781,200株	2019年12月期	6,781,200株
2020年12月期3Q	一株	2019年12月期	一株
2020年12月期3Q	6,781,200株	2019年12月期3Q	6,777,360株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 経営成績に関する説明	1
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による国際情勢の不安定により先行きが不透明な状況が続いております。

当社グループへの業績影響の懸念もごさいますが、当社グループはマーケティングSaaS事業が主な収益基盤の事業となっており、既存事業の収益拡大と新規事業及び新商品開発による収益基盤の確立が必須であると考えております。これらの事業の安定的・継続的な提供及び発展のために、ユーザビリティの改善や安定的なサービスの提供の実現、機能面や保守管理体制の強化により信頼性を高め、事業の収益拡大を目指してまいります。

また、当社グループを取り巻くインターネット領域については、その主たる指標である国内インターネット広告市場が、2019年に前年比19.7%増の2兆1,048億円（出所：株式会社電通「2019年日本の広告費」）と引き続き高い成長を維持しております。また、もう一つの対面市場であるEC市場につきましては、スマートフォンやタブレット端末の普及・進化に伴い、企業のECビジネス展開が加速しており、2019年国内BtoC-EC市場は前年比7.65%増の19.4兆円（出所：経済産業省「令和元年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（電子商取引に関する市場調査）」）と、こちらも高い成長を維持しております。

さらに、当社グループが注力する国内Fintech市場は2018年に前年比42.7%増の2,145億円（出所：株式会社矢野研究所「Fintech系ベンチャー企業の国内市場規模推定予測」）と、こちらも高い成長を維持しております。

さらに、富士キメラ総研『2018デジタルトランスフォーメーションの市場の将来展望』によると、国内DX市場の市場規模は、2017年の5,653億円から、2020年には1兆2,189億円、2030年には2兆3,687億円に拡大する見通しとなっており、急拡大する市場として注目されております。

これに伴い、当社グループはWebサイト最適化技術によるDX支援SaaSを中心に、オンラインビジネスのコンバージョン率（成約率）UPを実現する、Webマーケティング支援事業を展開しております。具体的には、特許技術（国内外）を活用したクラウド型のWebサイト最適化サービス「ナビキャストシリーズ」の提供や、Webサイトにおける不正アクセスなどに対するセキュリティ強化を目的とした「ProTech（プロテック）シリーズ」の提供しております。また、より精度の高いマーケティング施策を可能とするデータ解析サービスの提供と運用型広告事業を展開しております。その他、スマートフォンアプリサービスや最新テクノロジーを取り込んだサービスの開発と提供を行うことで、Webマーケティングの課題を統合的に解決する価値の高いサービスを提供しております。

また、連結子会社は投資関連事業を行う株式会社Showcase Capitalの1社となります。

昨今の新型コロナウイルス感染拡大により、リモートワーク環境やビデオ会議、ビデオ教育導入などの国内のインフラ改革は急速なスピードで進んでおり、非対面取引の市場が急拡大しております。当社の事業領域は今まで以上に大きなビジネスチャンスが期待できる市場だと考えておりますので、引き続き、積極的な事業展開を進めてまいります。

このような状況のもと、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,031,976千円（前年同四半期比8.6%減）、営業損失は28,531千円（前年同四半期は営業利益83,718千円）、経常損失は23,095千円（前年同四半期は経常損失11,753千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は36,627千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失168,551千円）となりました。

なお、当社が保有する固定資産（ソフトウェア等）の一部につきまして、将来使用の見込みがなくなったことから、当第3四半期連結累計期間において固定資産除却損5,336千円を特別損失に計上しております。

セグメント別の状況は以下のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメント区分の変更を行っております。変更の詳細は、「第4経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等） セグメント情報」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

#### ① マーケティングSaaS事業

（ナビキャストシリーズ&ProTechシリーズ）

「ナビキャストシリーズ」については、入力フォームの最適化サービス「フォームアシスト」を中心に事業を展開しております。特に「フォームアシスト」においては、高い改善効果が確認されている様々なオプション機

能の提案を、昨年度に引き続き金融機関の顧客を中心に展開をしておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、カスタマイズ商談が大幅に減少したことで新規販売数が伸び悩みました。

「ProTechシリーズ」については、昨年リリースしたオンライン本人確認/eKYCシステム「ProTech ID Checker（プロテック アイディー チェッカー）」は銀行、カードローン、古物商及び法律事務所のクライアントへの導入が進み、引き続きアカウント数を増加させ、業績に貢献しております。さらに、保険証の自動マスキング機能などのサービスラインナップが増え、今後も多様な業種への販売を進めてまいります。

オンライン取引や非対面取引の需要拡大、そして、デジタルマーケティング需要の拡大を受け、webセミナーや広告宣伝による集客を強化し、営業案件は増加傾向のため、第4四半期の販売回復を見込んでおります。

以上の結果、マーケティングSaaS事業全体における売上高は642,483千円（前年同四半期比17.0%減）、セグメント利益（営業利益）は430,386千円（前年同四半期比24.0%減）となりました。

## ② 広告・メディア事業

### （広告関連サービス）

広告関連サービスについては、従来から提供してきた「ナビキャストAd」など運用広告関連サービスに加え、顧客のニーズに合わせたSNS広告、スマートフォンアプリ対応の動画アドプラットフォーム「SHOWCASE Ad」などは引き続き安定的に売上貢献をしております。

### （オウンドメディア）

主力となるスマートフォン関連ニュース系メディア「bitWave」は引き続きアフィリエイト収益が大きく業績へ貢献しております。お金に関わる情報をわかりやすくお伝えする金融関連情報メディア「金融Lab.」も業績への貢献が拡大しております。女性向けメディア「ARVO」は月間400万PVを突破し、業績へ貢献いたしました。YouTubeを活用したメディアは既存メディアへの新たな流入チャンネルとしてPV数の増加に貢献しております。

今後も、注力事業として積極的な投資を行いさらなる事業成長を目指してまいります。

以上の結果、広告・メディア事業全体における売上高は318,354千円（前年同四半期比16.9%増）、セグメント利益（営業利益）は35,938千円（前年同四半期比59.8%減）となりました。

## ③ クラウドインテグレーション事業

当社の強みであるSaaSプロダクト開発ノウハウと大手企業の業務ノウハウを融合したデジタルトランスフォーメーション開発の事業をスタートいたしました。あらゆる業界へ向けSaaSサービスを積極的に展開し、市場構造改革が起こり始めたデジタルトランスフォーメーション市場において、企業の情報システムのクラウド化を支援してまいります。2020年2月にスタートした、広報・PR支援事業を行う株式会社ブラップジャパン（東証JQS：2449）との合弁会社であるブラップノード株式会社は企業のPR活動のデジタル化を推進するためのプロダクトが8月27日にリリースされ、下期の業績に貢献しております。その他、各界のリーディングカンパニーとのDX推進を積極的に展開してまいります。

以上の結果、クラウドインテグレーション事業全体における売上高は70,029千円、セグメント損失（営業損失）は6,208千円となりました。

なお、クラウドインテグレーション事業は第1四半期連結会計期間より新たに開始したため、前年同四半期との比較は行っておりません。

## ④ 投資関連事業

投資関連事業を手掛ける「株式会社Showcase Capital」は、事業会社やVC、CVCとスタートアップ企業をオンラインでマッチングするプラットフォームを開発し、2020年5月1日にお知らせしました通り、マッチングプラットフォームサービス「SmartPitch（スマートピッチ）」をリリースいたしました。今後も、積極的な投資活動により早期収益化を目指してまいります。

以上の結果、投資関連事業全体における売上高は220千円（前年同四半期は一千円）、セグメント損失（営業損失）は17,991千円（前年同四半期はセグメント損失（営業損失）68,287千円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ247,393千円減少し、1,981,350千円となりました。この主たる要因は、現金及び預金が202,470千円減少したことによるものであります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ173,470千円減少し、1,105,829千円となりました。この主たる要因は、長期借入金（1年内返済予定を含む）が86,386千円、未払法人税等が44,537千円減少したことによるものであります。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ73,923千円減少し、875,521千円となりました。この要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失36,627千円を計上したこと、剰余金の配当37,296千円があったことにより、利益剰余金が73,923千円減少したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の連結業績予想につきまして、新型コロナウイルス感染症の影響等、先行き不透明な経済情勢ではあるものの、当社グループとしましては、現時点で入手可能な情報や予測などに基づき算出した結果、連結業績予想の開示をいたします。

当社のコア事業である企業のWebマーケティング支援を中心とするマーケティングSaaS事業は、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、大手企業との新規商談の減少により減収の見通しです。しかしながら「ナビキャストシリーズ」と「ProTech（プロテック）シリーズ」はオンライン取引・非対面取引・デジタルマーケティング需要の増加などがプラスの影響となっており、第4四半期の業績回復を見込んでおります。これまで以上に販売を強化すると共に、あらゆる業界へ向けて新サービスをSaaS（※1）として数多く開発、販売、運営を行うクラウドインテグレーション事業を拡大して参ります。また、成長性の高いインターネット広告の販売、運営やオウンドメディアの運営につきましては、主軸の「bitWave」を中心にスマホ・金融系の収益性の高い事業への投資をより一層強化し、高い成長性が見込まれております。子会社である株式会社Showcase Capitalは、スタートアップと事業会社・投資家とをマッチングするプラットフォーム事業を展開し、早期収益化を目指します。

今後は、これまで以上に既存事業の更なる強化と新サービスの開発、販売、運営を加速させてまいります。

※1 Software as a serviceの略で、必要な機能を必要な分だけサービスとして利用できるようにしたソフトウェアもしくはその提供形態の事を指します。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,428,663	1,226,192
受取手形及び売掛金	188,212	145,227
営業投資有価証券	67,975	59,040
仕掛品	—	8,328
その他	68,593	70,524
貸倒引当金	△2,763	△3,021
流動資産合計	1,750,681	1,506,291
固定資産		
有形固定資産	92,447	86,547
無形固定資産	97,846	132,138
投資その他の資産		
その他	354,092	324,827
貸倒引当金	△66,323	△68,455
投資その他の資産合計	287,769	256,372
固定資産合計	478,063	475,059
資産合計	2,228,744	1,981,350
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,065	22,589
短期借入金	300,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	269,726	243,376
未払法人税等	46,675	2,137
その他	127,064	96,831
流動負債合計	771,530	664,934
固定負債		
長期借入金	452,920	392,884
その他	54,848	48,011
固定負債合計	507,768	440,895
負債合計	1,279,299	1,105,829
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	337,455	337,455
資本剰余金	246,429	246,429
利益剰余金	366,260	292,336
株主資本合計	950,145	876,221
新株予約権	△700	△700
純資産合計	949,445	875,521
負債純資産合計	2,228,744	1,981,350



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)
売上高	1,128,974	1,031,976
売上原価	313,116	269,211
売上総利益	815,858	762,764
販売費及び一般管理費	732,140	791,295
営業利益又は営業損失(△)	83,718	△28,531
営業外収益		
受取利息	727	666
投資事業組合運用益	8,472	11,417
その他	1,007	331
営業外収益合計	10,208	12,416
営業外費用		
支払利息	5,805	4,377
貸倒引当金繰入額	35,179	2,131
持分法による投資損失	63,910	—
その他	784	471
営業外費用合計	105,680	6,980
経常損失(△)	△11,753	△23,095
特別利益		
投資有価証券売却益	25,832	—
新株予約権戻入益	3,366	—
受取和解金	21,500	—
事業譲渡益	18,518	—
特別利益合計	69,217	—
特別損失		
固定資産除却損	26,206	5,336
減損損失	23,236	—
投資有価証券評価損	71,811	2,429
特別損失合計	121,255	7,766
税金等調整前四半期純損失(△)	△63,791	△30,861
法人税、住民税及び事業税	41,259	485
法人税等還付税額	—	△19,660
法人税等調整額	61,816	24,940
法人税等合計	103,076	5,765
四半期純損失(△)	△166,868	△36,627
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,683	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△168,551	△36,627

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純損失(△)	△166,868	△36,627
四半期包括利益	△166,868	△36,627
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△168,551	△36,627
非支配株主に係る四半期包括利益	1,683	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響による会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症の影響については、現時点で入手可能な外部情報等に基づき、今後2～3年は継続する可能性があるものと想定しております。

また、必要な施策を講じることにより業績に与える影響は当連結会計年度末までであると想定しているものの、2020年12月期の影響が想定よりも大きかったことを考慮に入れ、業績に与える影響は少なくとも当連結会計年度末までであるとの仮定へ変更し、繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響については不確実性が高いため、上記仮定に変化が生じた場合には、将来における財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	マーケ ティング SaaS事業	広告・メ ディア事 業	HR事業	投資関連 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	773,701	272,258	24,477	—	1,070,438	58,536	1,128,974	—	1,128,974
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	3,250	—	3,250	3,386	6,636	△6,636	—
計	773,701	272,258	27,727	—	1,073,688	61,923	1,135,611	△6,636	1,128,974
セグメント利益 又は損失(△)	566,126	89,481	785	△68,287	588,106	24,536	612,642	△528,924	83,718

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産向けサービス事業、スマートフォンアプリ事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△528,924千円は、事業セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に事業セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「マーケティングSaaS事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては16,595千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	マーケ ティング SaaS事業	広告・メ ディア事 業	クラウド インテグ レーション 事業	投資関連 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	642,483	318,354	70,029	220	1,031,087	888	1,031,976	—	1,031,976
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	4,574	4,574	△4,574	—
計	642,483	318,354	70,029	220	1,031,087	5,462	1,036,550	△4,574	1,031,976
セグメント利益 又は損失(△)	430,386	35,938	△6,208	△17,991	442,124	△10,502	431,621	△460,153	△28,531

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、経営管理業務受託事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△460,153千円は、事業セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に事業セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、新たに事業を開始したことに伴い、「クラウドインテグレーション事業」を報告セグメントに追加しております。

また、「HR事業」を営んでいた株式会社レーザービームを2019年12月31日付で解散したことに伴い、第1四半期連結会計期間より、「HR事業」セグメントを廃止しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。